入選

人のために働く

第六学年　H・S

ぼくは、人のために働くのだと思う。

例えば、スーパーで働いている人がいる。その商品を買う人がいる。買った人は、その品物で家ぞくを食べさせたり、子供を育てたりしている。ものを買うための お金は自分で働いてかせぐ。スーパーの店員は人に物を売ることが仕事なので、それによってお金をえる。また そのお金で何かを買う。

社会とは、この何かを売る人と買う人がお金を通してやりとりをしていることだと思う。

自分が仕事をしてお金をかせいで、物を買って、それを売る人がいて、そしてかせいだお金で物を買う。仕事は物を売る仕事だけではないけれど、このルーティンがくり返されている。

これによって結局、人のために働いたことが自分のためにもなる。そしてその仕事がだれかのためにもなる。

20 × 20

だから人間はずっと昔、石器時代から、まだそのころはお金というものはなかったけれど、自分たちが生きていくため、そしてみんなのためにかりをするという働き方をしていた。

人はぜったいに一人では生きていけない。だから今は働いてお金をもらうという形ですけ合いをしている。

だから、人は人のために働くのだと思う。